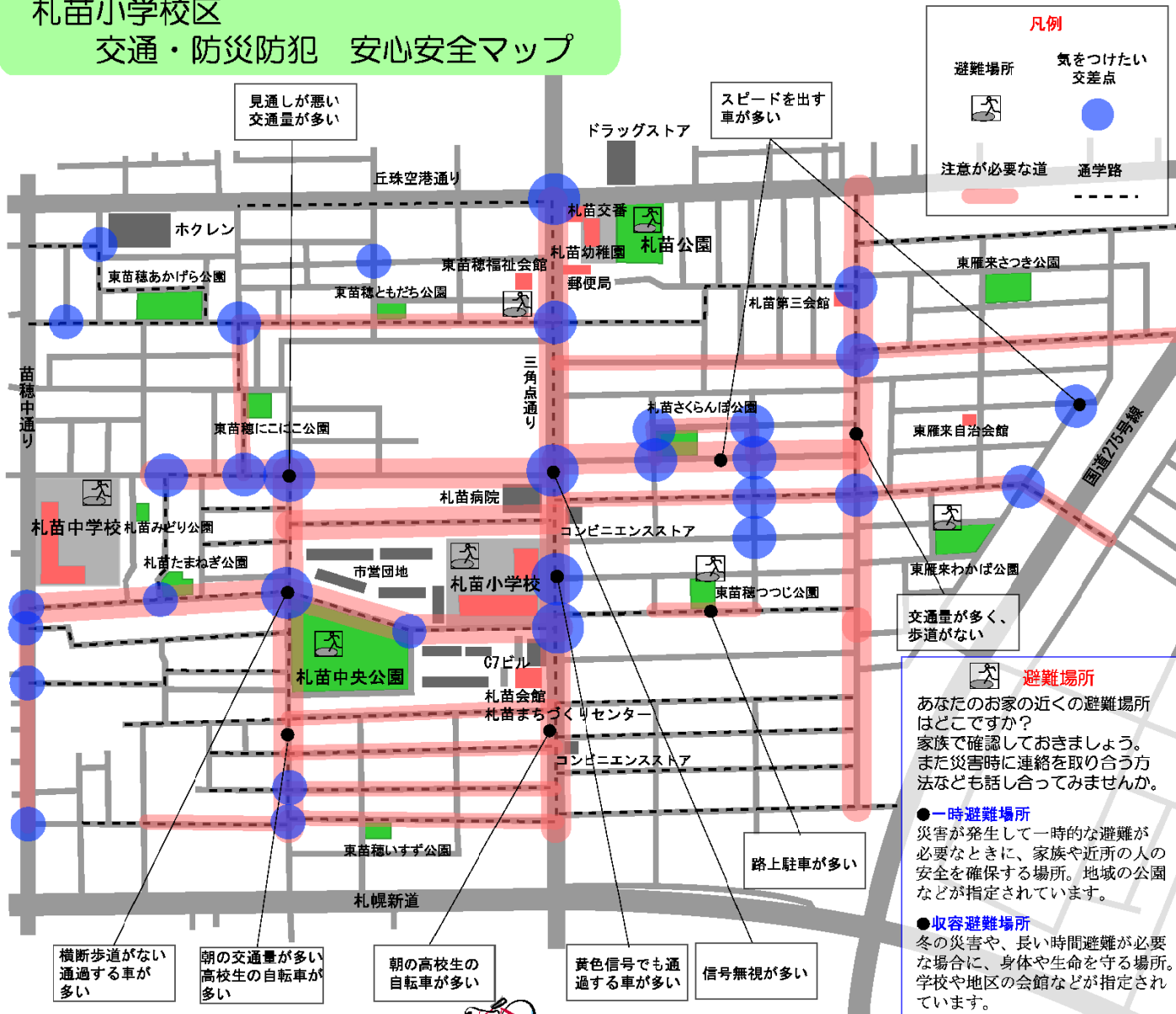


札幌苗小学校区 交通・防災防犯 安心安全マップ



『安心安全なまちづくり』に関するアンケートから

●道路の問題…歩道がないか狭い・信号がないか、あっても見えにくい
路上駐車が多く、歩道が通れない・見えずらい

●自分の問題…道路に飛び出した・道路で遊んでいた
自転車でスピードを出していた・ルールを守らなかった

●相手(車・自転車)の問題
…スピードを出している・交差点で一時停止をしない
抜け道になっていて、交通量も多く、車がスピードも出している
という回答が多くあげられています。
特に公園の周りでは、子どもの自転車も、車も、ともにスピードを出して、大変危険です。

それに対して **地域みんなで出来ることは…**

- 住宅街の中の狭い道路では、子どもたちやお年寄りがいつ飛び出してくるかわかりません。必ずどこから誰かが出てくると考えて、注意を払い、スピードを落として運転してください。
- 路上駐車があると、歩行者には周りが見えづらく(小さい子どもには特に危険)自転車も通ることができません。大きな事故につながる可能性があります。特に車の歩道上駐車は絶対にやめましょう！
地域でも注意看板などを作り、皆に協力を呼びかけていきましょう。

一人一人が出来ることは…

- まずは、アンケート結果やマップを基に家族で話してみてください。
子どもたちだけではなく、自転車通学の高校生のお姉さんお兄さん、散歩に出かけることの多いおじいちゃんおばあちゃん、車を運転するお父さんお母さん、皆が交通の危険性について考えてみましょう！

防犯の面からは「こわい思いをしたことがありますか？」
の問いに「ある」と答えたのは全体の1割でした。
時間帯は夕方。場所はそれぞれですが「〇〇公園」という答えが一番多かったようです。

危険な場所とは 誰もが入りやすく、周りから見えにくい場所
だといわれています。

「公園」は子どもたちにとっては大切な活動の場所。
「公園」が「危険な場所」にならないためには、大人の目が必要です。
おじいちゃんやおばあちゃんたちの散歩や、地域の皆さんがお出かけのついでに通る過ぎるだけで、人の目が増え、犯罪が減ります。

どうしたら、公園が危険な場所にならずに子どもたちが元気に遊べる場世代を超えた地域の交流の場になるかを、皆で考えていきましょう。

「登下校は誰と？」との問いに全体の2割以上の子どもが「一人で」と答えていました。自宅の近くに友達がいるのでは限らないので、どうしても一人になってしまうことがあります。

札幌苗小学校では、地域と一緒に「セーフティー・リレー防犯活動」を行っています。「自分たちの子どもは自分たちで守る！」という意識を持って、登下校のわずかな時間に、家族が自宅前の道路や近くの交差点に立ち、子どもが安全に登下校できるように各家庭がリレー形式で見守ろうという活動です。
黄色の腕章をつけ、子どもたちをしっかり見守ろうと頑張っています。

札幌苗小学校では、地域と一緒に「セーフティー・リレー防犯活動」を行っています。「自分たちの子どもは自分たちで守る！」という意識を持って、登下校のわずかな時間に、家族が自宅前の道路や近くの交差点に立ち、子どもが安全に登下校できるように各家庭がリレー形式で見守ろうという活動です。
黄色の腕章をつけ、子どもたちをしっかり見守ろうと頑張っています。

札幌苗小学校では、地域と一緒に「セーフティー・リレー防犯活動」を行っています。「自分たちの子どもは自分たちで守る！」という意識を持って、登下校のわずかな時間に、家族が自宅前の道路や近くの交差点に立ち、子どもが安全に登下校できるように各家庭がリレー形式で見守ろうという活動です。
黄色の腕章をつけ、子どもたちをしっかり見守ろうと頑張っています。

札幌苗小学校では、地域と一緒に「セーフティー・リレー防犯活動」を行っています。「自分たちの子どもは自分たちで守る！」という意識を持って、登下校のわずかな時間に、家族が自宅前の道路や近くの交差点に立ち、子どもが安全に登下校できるように各家庭がリレー形式で見守ろうという活動です。
黄色の腕章をつけ、子どもたちをしっかり見守ろうと頑張っています。

札幌苗小学校では、地域と一緒に「セーフティー・リレー防犯活動」を行っています。「自分たちの子どもは自分たちで守る！」という意識を持って、登下校のわずかな時間に、家族が自宅前の道路や近くの交差点に立ち、子どもが安全に登下校できるように各家庭がリレー形式で見守ろうという活動です。
黄色の腕章をつけ、子どもたちをしっかり見守ろうと頑張っています。